

## 福島県の女子高校生を対象としたキャリアメンタリングプログラムの実践

——『ヤングアメリカンズワークショップ』を用いて——

飯田 順子<sup>1,2)</sup> 石隈 利紀<sup>1,2)</sup> 佐野 一郎<sup>3)</sup> 林 貴美子<sup>3)</sup>  
新津 勝二<sup>2)</sup> 甲斐 雄一郎<sup>1,2)</sup> 松本 末男<sup>2)</sup> 今井 二郎<sup>2)</sup>

本研究の目的は、福島県の女子高校生を対象としたキャリアメンタリングプログラムの効果を検討することであった。プログラムは、ステップ1「ヤングアメリカンズ」、ステップ2「外国人留学生とのセッション」、ステップ3「社会人女性とのセッション」、ステップ4「キャリアプログラムの企画・実施」という4つのステップから構成されていた。4段階で実施したアンケートの得点を用いて、一元配置分散分析を実施したところ、「自信」「自己表現」「チームワーク」で有意差がみられ、いずれも得点が増加していることが示された。また、各ステップ終了後の自由記述の回答のまとめから、各ステップの肯定的な効果及び各ステップのキャリアメンタリングの効果の違いについて示唆が得られた。現場への提言が述べられている。

キーワード：キャリアメンタリングプログラム、ヤングアメリカンズワークショップ、グローバル教育、女子高校生

## Conducting a career mentoring program to high school student girls in Fukushima: Using "Young Americans Workshop"

Junko Iida<sup>1,2)</sup> Toshinori Ishikuma<sup>1,2)</sup> Ichiro Sano<sup>3)</sup> Kimiko Hayashi<sup>3)</sup>  
Katsuji Niitsu<sup>2)</sup> Yuichiro Kai<sup>1,2)</sup> Sueo Matsumoto<sup>2)</sup> Jiro Imai<sup>2)</sup>

The purpose of the present study was to conduct a career mentoring program to high school student girls in Fukushima and explore the effect of its program. The program was consisted of 4 steps: (1) The Young Americans Workshop, (2) Session with students from abroad, (3) Session with working women, (4) Planning and conducting career program for their juniors. Using the date conducted at the end of each session, we conducted one-way ANOVA and found out that the scores of "confidence", "expression", "teamwork" significantly increased. Written feedback of the participants revealed the positive effects of each session and the difference effect of each session. The implication of this result was briefly discussed.

Key words : career mentoring program, "Young Americans Workshop", global education, high school student girls

---

1) 筑波大学人間系 2) 筑波大学附属学校教育局 3) じぶん未来クラブ  
1) Faculty of Human Sciences, University of Tsukuba  
2) Education Bureau of the Laboratory Schools, University of Tsukuba  
3) Jibun Mirai Club

## 【問題と目的】

2011年3月11日東北地方を中心として未曾有の大震災が発生した。岩手県、宮城県、福島県を中心に、多くの学校も被災し、子どもや教師の多くも深刻な影響を受けている。特に子ども達への影響は深刻で、ストレス反応を示す児童生徒も多く、数々の心のケアの取り組みがなされている。例えば、西山・石隈・家近・小泉・Pfohl (2014) は、日本学校心理士会「東日本大震災子ども・学校支援チーム」が継続的に行っている子どもと学校の支援について報告し、「子どものレジリエンス」の発揮と成長及び「学校のレジリエンス」の発揮と成長に焦点を当てて考察している。

一方で、被災からの回復と同時に、被災地に暮らす児童生徒には、教育課題・発達課題への取り組みが求められる。例えば、本実践が対象とする高校生の発達課題には、「内面の言語化が可能になる（学習面）」、「親しい友人を作り、親密かつ率直な話ができる（心理・社会面）」、「進路の選択を考え、方向を見出す（進路面）」といったことがある（石隈, 1999）。また、日本の学校に通う児童生徒としての教育課題には、「高校での学習に興味・関心をもつ（学習面）」、「大学受験や就職試験などの準備の学習を行う（学習面）」、「高校生である自分を受け入れる（心理・社会面）」、「クラスや部活動や地域で、親しい友人を作り、議論する（心理・社会面）」、「クラスや部活や生徒会活動などで、自分の行動について選択する（進路面）」、「進路について、多様な情報を収集し、具体的な進路を選択する（進路面）」などがある（石隈, 1999）。高校生という発達段階・学校段階を考慮すると、キャリアに関する支援は欠かせないものである。

また、2015年8月28日には、「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）」が成立し、これからの時代を生きる女子高校生には、社会の中での職業的ビジョンの形成も重要な課題になってくる。一方で、総務省「労働力調査（基本集計）」（平成24年平均）の報告では、管理職職業従事者（校務及び学校教育を除く）に占める女性の割合は、平成24年11.6%と低い水準にあり（内閣府男女共同参画局, 2015）、また女性の雇用の多くがパートやアルバイトなど非正規労働の仕事も多く、これから社会で働く女性にとって身近にロールモデルを見つけにくいという現状もある。

このような状況の中、女子高校生のキャリア支援の方法の一つとして、キャリアメンタリングという概念

が参考になる。メンタリングとは、「知識や経験の豊かな者（メンター）が、未熟な者（メンティ）に対し、キャリアや心理社会面での発達を目的に継続して行う支援行動」とされている（榊原・石川・木内, 2013）。榊原ら（2013）は上記の定義に従って、メンターのメンタリング機能を測定するため、「キャリア的支援」、「心理社会的支援」、「ロールモデル的支援」の3つの下位尺度から構成される「日本語版MFQ-9」を作成している。また、安達（2008）は女子学生のキャリア探索について研究している。安達（2008）は、キャリア探索を「個人が自分自身や仕事、職業、組織について情報を収集し理解を深めること」とした上で、自己探索6項目と環境探索7項目、計13項目からなる尺度を作成している。

また、近年では、キャリアの方向性も多様化し、海外で暮らす機会やグローバル展開する組織の中で働く機会も増加している。そのような中で、現代の子どもには「グローバル能力」や「グローバルマインド」といった特性も求められている。児童生徒のグローバル能力の育成に関する研究も増えつつある。藤原・飯田・甲斐・松本・日下部・鈴木・石隈（2015）では、鈴木・坂元・森・坂元・高比良・足立・勝谷・小林・樫淵・木村（2000）の尺度を参考に、「国際的資質尺度」を作成している。この尺度は、「異文化・自国文化理解尺度」、「外国語コミュニケーション能力尺度」、「他者との協同的問題解決能力尺度」、「海外・国際交流への積極性尺度」という4種類の尺度から構成されている。各尺度の信頼性も検討されている。

こうした尺度を用いて、海外研修旅行やヤングアメリカンズワークショップ等の異文化体験の効果についても検討が行われている。飯田・石隈・佐野・林・新津・甲斐・松本・今井・藤原（2015）は、ヤングアメリカンズ（以下、YA）という歌とダンスのワークショップが、児童生徒の国際的資質に及ぼす影響を検討している。その結果、ワークショップに関する気持ちや感想を問う項目では、「活動に対する気持ち」、「外国人とのコミュニケーション」、「協力に対する態度」、「英語の学習意欲」、「外国への興味」の5項目において、得点が有意に上昇した。また、外国人に対するイメージを多重回答法でたずねた結果、「明るい」、「フレンドリー」、「やさしい」、「面白い」という肯定的なイメージに回答する生徒の人数が増加した。さらに、社会的スキルを測定する項目では、「いやなことはいやと言う」、「落ち込んでいる人に声をかける」の2項目において得点が有意に上昇した。一方、前述の藤原

ら(2015)では、シンガポール3泊5日の研修旅行を経験した高校生246人に対し、前述の国際的資質尺度を、旅行の前後に実施した。その結果、自国に対する理解や外国人に対する親和性、国際交流への積極性などの国際的資質において、旅行前の得点よりも旅行後の得点が有意に上昇した。これらの研究より、学校段階でのこうした実践が、児童生徒のグローバル意識を高めることが示唆されている。

以上のことから、本研究の目的は、福島県内の高校2年生女子生徒を対象としたキャリア支援プログラム「TOMODACHI女子高校生キャリアメンタリングプログラム」を実施し、その効果を検討することである。このプログラムは、4つのステップから構成されており、ステップ1ではYAのワークショップを体験し、ステップ2では「世界中から訪れる外国人留学生とのセッション」を体験し、ステップ3では「日本・世界で活躍する社会人女性とのセッション」を体験し、ステップ4では「後輩向けのキャリアプログラムの企画・実施」を行うものである。本プログラムは、これら4つのステップを通じて、将来に対する視野を広げ、福島を始めとした次世代のリーダーの育成を目指すものである。

## 【方法】

### 1. 実施時期と実施場所

各ステップの実施時期と実施場所を、Table 1に示す。いずれも2014年度に行われ、場所は東京都及び福島県で実施された。

本プログラムの主催は、「NPO法人じぶん未来クラブ」であり、プログラムに係る費用は、「TOMODACHIイニシアチブ」を通じた複数の企業からの支援を基盤とした。なお、TOMODACHIイニ

シアチブとは、東日本大震災後の日本の復興支援のために生まれた、公益財団法人米国カウンシルと在日米国外交館が主導する官民パートナーシップであり、教育、文化交流、リーダーシップといったプログラムを通して日米の次世代のリーダー育成を目指している。

また、4つのステップは主に夏休み期間、土日を用いて実施したため、授業の欠席等への影響は無かった。

### 2. 参加者

福島県内の高校から各校数名の募集が行われ、女子高校生116名が参加した。参加者116名を5～6名ずつ1チームにし、A～Tの20チームに分け、全体で行うプログラム、チームをいくつか束ねてクラスを作りクラスで行うプログラム、発表等チームが主体で行うプログラムを組み合わせで行った。各チームに大学生もしくは専門学校生がメンターとして1名ずつ加わった。メンターは、TOMODACHIイニシアチブを通して募集を行い、これまでに留学等の経験がある学生や国際交流経験が豊かな学生が参加した。プログラムスタート時まで、プログラムの中で自分が担う役割に関する研修を受け、事前ミーティングにも複数回参加していた。またプログラム中も、プログラムのスタッフに相談したり、助言を受けたりすることができる体制であった。

ステップ1の参加者は107名(欠席者8名)、ステップ2の参加者は94名(欠席者21名)、ステップ3の参加者は74名(欠席者41名)、ステップ4の参加者は78名(欠席者37名)であった。

### 3. プログラムの内容

各ステップの詳細について、以下に記述する。

ステップ1「YA・歌とダンスのワークショップ」参加者全員がヤングアメリカンズキャスト40数名と一

Table 1 TOMODACHI女子高校生キャリアメンタリングプログラム in 福島 詳細

プログラム内容	日時	場所
ステップ1 ヤングアメリカンズ・歌とダンスのワークショップ	2014年8月22日～24日	国立オリンピック記念青少年総合センター(東京)
ステップ2 世界中から訪れる外国人留学生とのセッション	2014年11月1日～2日	国立磐梯青少年交流の家(福島県)
ステップ3 日本・世界で活躍する社会人女性とのセッション	2014年12月20日～21日	国立オリンピック記念青少年総合センター(東京)
ステップ4 後輩向けのキャリアプログラムの企画・実施	2015年1月31日～2月1日	いわき文化センター(福島県)

緒に、1時間の歌とダンスのショーを創り上げるプログラムである。歌とダンスのワークショップを3日間行い、最後に、完成したショーをキャストと参加者が一体となって観客に披露する内容であった。

ステップ2「世界中から訪れる外国人留学生とのセッション」 欧米やアジア各国からの留学生が、なぜ留学先に日本を選んだのか、どんな夢やキャリアを描いているのか、そして留学するまでにどんな努力や葛藤があったのか等を語る内容である。国立磐梯青少年交流の家に宿泊し、ナイトセッションではグループごとに自由に語りあう時間も設定された。

ステップ3「日本・世界で活躍する社会人女性とのセッション」 グローバル展開されている企業や地元の企業等で働く社会人女性とのセッションであった。現在の仕事の他に、高校時代に考えていたことや進学・就職、結婚や子育てするにあたってどんな決断をしてきたか等についても話してもらい、高校生が質問する時間が設定された。ステップ2同様に、ナイトセッションが設定されており、グループごとに自由に語りあう時間も設定された。

ステップ4「後輩向けのキャリアプログラムの企画・実施」 3つのステップを通して学んだことを基に、プレゼンテーションを行う内容であった。活動を通して得たこと、そしてそれを今後の自分の将来にどう生かしていくかをチームで考え、後輩である高校1年生向けのキャリア授業を企画・実施する内容であった。

#### 4. 効果の測定方法

以下の(1)～(10)からなる質問紙を作成し、各ステップ終了後、アンケートを実施した。質問紙の構成は、今回のプログラムがターゲットとする内容に即して、学校心理学の専門家や30年以上の教職経験のある教員らで検討し、9つの要素を測定することとし、合計34項目とした。アンケートは、質問紙の郵送またはWeb調査にて実施した。

##### (1) 自信(自己信頼)

自信を測定する項目として、2要因自尊感情尺度(箕浦・成田, 2013)を用いた。項目は、「自分にはいろいろな素質があると思う」、「自分のことを好ましく感じる」であり、「1. 全く当てはまらない」、「2. ややあてはまらない」、「3. どちらともいえない」、「4. ややあてはまる」、「5. とてもよくあてはまる」の5件法で実施した。

##### (2) 他者信頼

他者への信頼を測定する項目として、石毛・無藤(2005)で用いられたソーシャル・サポート尺度を採用した。この尺度は、久田・千田・箕口(1989)の学生用ソーシャル・サポート尺度の項目表現を修正した中学生版である。原尺度では6項目あるが、そのなかで「友達」に対する因子負荷量の高い3項目(「あなたが何か失敗をしてもそっと助けてくれる」、「ふだんから、あなたの気持ちをよくわかってくれる」、「あなたが何か悩んでいるときにどうしたよいか教えてくれる」)を用いた。これらの項目について、「父親」、「母親」、「きょうだい」、「先生」、「友達」について聞くことになっているが、今回は項目数の関係から、「周りの人は」という形でたずねた。前述と同様の5件法で実施した。

##### (3) 表現の大切さ

表現の大切さを測定する項目として、藤原ら(2015)で作成された「国際的資質尺度」の下位尺度「アサーション」2項目(「自分の意見と異なる人に対して、自分の意見を言える」、「自分の意見をきちんと主張できる」)と、飯田ら(2015)でヤングアメリカンズの効果を測定するのに用いた1項目(「自分自身の気持ちや考えを積極的に表現できている」)、計3項目を用いた。5件法で実施した。

##### (4) チームワークの大切さ

チームワークの大切さを測定する項目として、前述の「国際的資質尺度」(藤原ら, 2015)の下位尺度「他者と共同での問題解決能力」10項目のなかから、具体的場面を想定したものでなく一般的な共同問題解決を問う3項目(「困難に直面しても、人と協力して問題解決に取り組む」、「自分と意見や文化の背景が異なる人と協力できる」、「困ったときに話し合っ、アイデアを出そうと思う」)を用いた。5件法で実施した。

##### (5) 国際的な興味関心(視野の広がり)

前述の「国際的資質尺度」(藤原ら, 2015)の下位尺度「海外・国際交流への積極性」7項目のうち、海外への興味関心を直接的に問う3項目(「将来、同僚として外国人と仕事をしたい」、「海外へ行きたい」、「同年齢の外国人が話せる程度に自分も英語を話せるようになりたい」)を用い、5件法で行った。

##### (6) 日本への誇り

前述の「国際的資質尺度」(藤原ら, 2015)の下位尺度「自国理解」の3項目(「日本人であることを誇りに思う」、「日本はすばらしい国だと思う」、「日本の

独特な習慣を大事にしたい)を用い、5件法で実施した。

(7) 未来への期待・現在への意味づけ

小塩ら(2002)が作成したレジリエンス尺度のうち、「目標志向性」2項目(「自分には将来の目標がある」、「自分の目標のために努力している」)、「新奇性追求」3項目(「ものごとに対する興味や関心が強いほうだ」、「新しいことや珍しいことが好きだ」、「色々なことにチャレンジすることが好きだ」)を用いた。5件法で実施した。

(8) キャリア意識・キャリア探索行動

前述の安達(2008)のキャリア探索尺度の下位尺度「環境探索」7項目のうち4項目(「本や雑誌、インターネットなどで仕事や働くことに関連する記事を読む」、「将来の仕事について友人や先輩、家族などから話を聴く」等)、「自己探索」6項目のうち3項目(「自分の長所や短所について考えてみる」、「これからの自分の生き方について想像してみる」等)を用いた。5件法で実施した。

(9) 女性としての社会参画意識

女性としての社会参画意識を問う項目を、前述の専門家グループで2項目(「女性も社会で活躍できると思う」、「女性の視点から社会に貢献できることがあると思う」)作成した。5件法で実施した。

(10) 自由記述

今回のプログラムへの感想欄として、「今回のプログラムに参加した感想を以下に自由にご記入ください」という問いを設定した。

【結果】

1. ステップ1～ステップ4を通しての得点の変化

まず、各変数の合成得点を算出する上で、ステップ1終了後の得点を用いて、信頼性係数を算出した(Table 2)。その結果、すべての変数で.70以上の $\alpha$ 係数が示された。そこで、各変数に含まれる項目間で一定の類似性があると判断し、合成得点を算出した。

Table 2 各変数の信頼性係数( $\alpha$ )

	項目数	$\alpha$
自信	3	.744
他者信頼	3	.775
表現	3	.868
チームワーク	3	.716
国際的関心	3	.751
日本への誇り	3	.794
希望	6	.712
キャリア意識	6	.820
女性の社会貢献意識	2	.829

次に、ステップ1～ステップ4を通しての得点の変化を検討するため、時期を独立変数、各合成得点を従属変数とした一元配置分散分析を実施した(Table 3)。その結果、「自信」、「自己表現」、「チームワーク」で有意差がみられた( $F[3, 129]=7.35\sim 10.37, p<.01$ )。有意差がみられた変数について、多重比較を実施したところ、「自信」では、ステップ2・ステップ3・ステップ4の終了後の得点が、ステップ1終了後の得点よりそれぞれ有意に高いことが示された。「自己表現」

Table 3 時期による各下位尺度の分散分析結果( $n=44$ )

	ステップ1		ステップ2		ステップ3		ステップ4		F	多重比較
	M	SD	M	SD	M	SD	M	SD		
自信	3.20	.59	3.45	.62	3.48	.73	3.64	.70	8.92**	1<2,3,4
他者信頼	3.92	.83	3.98	.76	4.08	.51	4.08	.65	1.53	
表現	3.61	.90	3.70	.83	3.98	.76	4.13	.66	10.37**	1<3,4 2<4
チームワーク	4.17	.53	4.20	.59	4.39	.50	4.48	.48	7.35**	1,2<4
国際的関心	4.40	.53	4.39	.64	4.50	.61	4.54	.59	1.83	
日本への誇り	4.68	.45	4.69	.46	4.70	.43	4.63	.57	0.54	
希望	4.14	.60	4.17	.63	4.13	.57	4.31	.53	2.51†	
キャリア意識	4.15	.65	4.08	.72	4.20	.74	4.25	.69	1.64	
女性の社会貢献意識	4.80	.36	4.72	.42	4.91	.27	4.86	.35	3.35*	

\*\* $p<.01$ , \* $p<.05$ , † $p<.10$

では、ステップ3・ステップ4終了後の得点が、ステップ1終了後の得点より有意に高く、ステップ4終了後の得点がステップ2終了後の得点より有意に高いことが示された。「チームワーク」では、ステップ4終了後の得点が、ステップ1・ステップ2のそれぞれの得点より有意に高いことが示された。

## 2. ステップ1のプログラム評価

ステップ1 (YA・歌とダンスのワークショップ)に参加した生徒の感想は、107件得られた。得られた107件について、内容からカテゴリーを抽出し、抽出したカテゴリーに従って各生徒の回答を分類した。生徒の回答の中には、いくつかの要素についての記述が含まれ複数のカテゴリーに分類可能と思われる内容もみられたが、回答全体のなかから書かれている分量や用いられている言葉から、最も中心的と思われる内容でいずれかのカテゴリーに分類した。その結果、「楽しかった等の活動の感想」31件、「変化・成長を実感・自信・チャレンジ」28件、「自己発見」10件、「YAの関わり・エンパワメント」8件、「グローバル意識・体験」8件、「自己表現の重要性・気持ちよさ」5件、「キャリア意識」3件、「協力・チームワーク」3件、「その他」3件に分類された (Table 4参照)。

## 3. ステップ2のプログラム評価

ステップ2 (世界中から訪れる外国人留学生とのセッション)に参加した生徒の感想は、94件 (未回答21名)得られた。97件について、前述の方法で分類した結果、「留学生の努力への共鳴・刺激」39件、「グローバル意識・英語や留学の重要性」23件、「キャリア意識」6件、「あこがれ」7件、「日本の良さの再発見・郷土愛」4件、「周囲のサポートの気づき」1件、「楽しかった等の感想」7件、「その他」6件であった (Table 5参照)。

## 4. ステップ3のプログラム評価

ステップ3 (日本・世界で活躍する社会人女性とのセッション)に参加した生徒の感想は、74件 (未回答41名)得られた。74件について、前述の通り分類した結果、「キャリア意識」29件、「新たな気づき」15件、「女性のロールモデル」13件、「成長・気づき」5件、「グローバル意識・英語や留学の重要性」3件、「その他」3件であった (Table 6参照)。

## 5. ステップ4のプログラム評価

ステップ4 (後輩向けのキャリアプログラムの企画・実施)に参加した生徒の感想は、74件 (未回答41名)得られた。74件について、前述の通り分類した結果、「伝えることに対する不安や難しさ、達成感」22件、「達成感や活動の楽しさ」20件、「チームワーク」11件、「振り返りの良い機会・後輩とのつながり」9件、「成長・変化を実感」6件、「郷土愛」1件、「その他」9件であった (Table 7参照)。

## 【考察】

### 1. ステップ1～ステップ4を通しての得点の変化

今回、各ステップ終了後にアンケートを実施しているため、ステップ1の前段階の生徒のアンケート調査ができていない。そのため、多くの変数で1回目のアンケート調査から非常に得点が高い傾向が示されている。また、こうした実践に参加する女子高校生は、募集の段階で国際的な事柄に対する興味関心やリーダーシップが高いことも考えられる。そのため、YAの効果について量データで検討することができないため、今回の研究では4つのステップ全体の効果に関して検討することが難しい。

一方、いくつかの変数で、ステップ1～ステップ4を通して得点が増加する傾向が示された。「自信」では、各ステップと進むにつれ得点が増加しており、ステップ1とステップ2, 3, 4の間に有意差がみられている。プログラムを重ねることで、自信が高まることが示唆されている。また、「自己表現」でも同様の傾向がみられ、プログラムを重ねるごとに得点の上昇がみられている。そして、ステップ1とステップ3, 4の間、ステップ2とステップ4の間に有意な得点の上昇が示され、YA参加後と留学生との交流後と比較しても、社会人女性との交流、後輩へのキャリアプログラムの企画・実施後の方が「自己表現」の得点が増加したことが示されている。また、チームワークについても、ステップ1・ステップ2の終了後よりも、ステップ4の終了後の方が有意に高いことが示されている。また、「女性の社会貢献意識」において5%水準で有意差がみられ、「希望」でも10%水準で有意傾向がみられているが、多重比較の結果では有意差が得られなかった。以上のことから、このプログラムはステップを重ねるごとに、女子高生の自信や表現力、チームワークを高めていることが示され、プログラムの有効性が示唆された。

Table 4 ステップ1の感想のまとめ

カテゴリー	回答例	頻度
楽しかった等の活動の感想	<ul style="list-style-type: none"> <li>・step1に参加して、初めは緊張していたけれど、だんだんと自分から楽しむ事が出来たので良かったです。</li> <li>・自分と同じ福島県的女子高生と協力したりいっしょに楽しんだり意見を出しあったりとても貴重ですばらしい体験ができた。たくさんの友達ができたり、ありのままでダンスしたり歌ったりこのプログラムに参加できて本当によかった！</li> </ul>	31
変化・成長を実感・自信・チャレンジ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回のプログラムに参加して、自分の視野が広がったと感じました！</li> <li>・自分の思っていることを積極的に言うことが出来るようになった。YAの人の気持ちは言葉が通じなくても伝わってきた。でもやっぱり英語がわかるようになりたい。とっても楽しかった。</li> <li>・今でもまだ鮮明に覚えているくらい、いい経験でした。Step1のあとに学校の文化祭があったのですが、Step1で何にでも挑戦する積極性を養えたからこそ、すごくいい思い出をつくることができました。また、海外のことにも更に興味深くなりました。でも、やはり1番は楽しかったです。</li> </ul>	28
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・なにをやっても自由だし、それが間違いじゃない、とかできないことはない、なんでもできるんだなど、学んだことはたくさんあるし、それを活用していきたいとも思うけど、学校などでやる事がまったくできませんでした。でもせっかくYAの方々がわたし達に教えてくれたことなので諦めず、時間がかかってもいいから、学校でもできるようにしないと、と思いました。YAの方々のように失敗を恐れなくて自由に楽しい人生をおくれるようにしていきたいです。</li> <li>・Step1で行ったことを、時々思い出しています。昨日も今日も思い出していました。たまたま、あの経験はほんとうに自分がしたものなのかな？って思うくらい印象深い場面ばかりありました。この経験は一生忘れることはないと感じています。</li> </ul>	10
自己発見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初めて会うメンバー、初めての場所、あんなに多くの外国人と触れあうことも初めて、スポットライトを浴びて人前で歌うことも初めてで、たくさんの初めてを経験しました。そのなかで、どんどん新しいことに挑戦したいという気持ちが出てきました。こんな自分に出会うのは初めてでした。YAから教えてもらった、自分らしくいることの大切さはいま本当に私の心の支えになっています。人と違うことを恐れず堂々と自分らしくいられると、気持ちが前向きになります。参加して本当に良かったです。</li> <li>・普段人見知りだからという理由であまり人との関わりを遠ざけていたが、本当は自分自身がやろうとしていなかったということに気づきました。</li> </ul>	10
YAの関わり・エンパワメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ダンスなど体を動かして自分を表現するのは苦手で、感情を伝えることがあまり上手でないので、初めはもう本当にドキドキで、ギクシャクしていたと思います。</li> <li>このプログラムだけは早く終わってくれと願ってました。しかし、どんなに振り付けを間違えても、表現して動くことが出来なくても、「大丈夫」「上手」と声を掛けてくれて、いつも笑顔で絶やさず接してくれたことに感謝しています。</li> <li>・2回目のYAでしたが、やっぱりすごいエネルギーだし、生き生きしていると思いました。英語があまり理解出来なかったのがとても心残りですが、楽しかったです！</li> </ul>	8
グローバル意識・体験	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人の人達とあんなに話したのは初めてだったのでとても自分自身の良い刺激になりました。もっと英語が出来るようになりたいって思うようになりました！</li> <li>・言葉も文化も違う外国人との交流は改めて楽しいと思った。</li> </ul>	8
自己表現の重要性・気持ちよさ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回のプログラムに参加してYAやチームの皆との活動を通して自分の意見を言う大切さを学びました。</li> <li>・自分の気持ちをそのまま素直に伝えることは勇気がいるし難しいけれど、みんなはそれを応援し、助けてくれることがわかり自分にとってとてもプラスになりました。</li> <li>・自分のありのままをさらけ出して楽しむことがこんなにも難しく、こんなにも気持ちいいものなんだということも同時に学べました。私のこれからの人生において貴重な経験ができました。</li> </ul>	5
キャリア意識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路や将来の夢を考え直させてくれて、もともとの夢を実現したいという気持ちを再確認させてくれました。外国人とのコミュニケーション、英語をペラペラ話し、異国の地で外国人とダンスや歌、演技をし、強い絆で結ばれていた日本人の方たちを見て、やっぱりかっよくて、すごく輝いて見えて、諦めたくないなって思いました。</li> <li>・言葉が通じなくても会話し、少しでも他の人より前にでて行動する大切さを学びました。YAの活動を通して、自分のやりたいことがわかりました。とても思い出に残っています。</li> </ul>	3
協力・チームワーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どんなに難しいことでもみんな協力すれば必ず成功するということを学んだ。国や地域、言葉が違って相手にも気持ちを伝えられることが分かった。</li> <li>・私は今回のプログラムで多くの人と一つのことをやり遂げる素晴らしさを学びました。今までは団体に行動することが苦手でやる前から面倒くさいとやっていませんでした。しかし今回一つのことをやり遂げる楽しさを学ぶ事が出来ました！</li> </ul>	3

Table 5 ステップ2の感想のまとめ

カテゴリー	回答例	頻度
留学生の努力への共鳴・刺激	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほかの国の人がなぜ留学したのかの話をきいて、自分のやりたい事、なりたいもののために留学してきたという話を聞いてすごいと思った。どんな状況だとしても諦めずに自分の夢を追いかけている留学生達の話聞いて、私も自分の夢を追いかけたいと思った。</li> <li>・たくさんの留学生のお話を聞くことができ、みんな親に反対されても自分の意見をはっきりし最後まで諦めないで頑張っているということが共通していて、とても大切なことだなあと感じ、自分も頑張らなくてはいけなかった。</li> <li>・留学生のみなさんのお話を聞いて感じたことは、行動しなければ何も始まらないということです。留学生のみなさんはこれまで様々な困難に遭遇してきました。でも、そのときに自分のやりたいことを実現させたいという思いで行動してきたからこそ、今の彼女たちがあるのだと思いました。考えるより、まず行動。加えて、自分の夢を実現させたいという強い意志があれば、夢は叶うのだと思います。また、彼女たちのお話から、世界には勉強したくてもできない、恵まれない環境にいる人がまだまだたくさんいるということも改めて実感しました。今自分が恵まれた環境で生活できていることに感謝し、そういう方々の分まで努力して勉強して、社会に貢献できる女性になりたいです。</li> </ul>	39
グローバル意識・英語や留学の重要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・祖国から離れてこの日本という国に学びに来た留学生の方々の体験を聞くことが出来て、自分の将来の幅が広がったように思います。私の近所には外国人の方などもあまりいないので、二日間も外国人の方と直接交流することはとても貴重な経験になりました。</li> <li>・自分のチーム担当の留学生の方が、日本語が得意ではないと聞いて、なるべく英語で話そうと心掛けたが、自分が思っている以上に自分に英語力がなくてすごく悔しかった。もっともっと、勉強して積極的にコミュニケーションを取りたいと思う。あと、どこの国の人もみんなが自分の国に誇りを持っているのに感動した。たくさんある国の中で、日本を留学先に選んでくれたのがすごく嬉しいと思った。</li> <li>・国から出るときに勇気が必要だったこと、新しい国で暮らすことが不安だったことなどたくさんのお話を聞いて、国や言葉、そして文化が違って同じ人間であることに変わりはないと再認識しました。もっともっとたくさんのお国について知りたいし、行ってみたいなと思いました。</li> </ul>	23
キャリア意識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私は今回のプログラムに参加して将来の目標を少し明確にできたと思います！ヤングアメリカンズでは勇気や自信を身につけて、今回はそれもいかして話し合いができたと思います。実際に努力の上で留学してる方からの意見をきけてとても参考になったし、終わってからも進路についてより詳しく考えて、親とも話し合えるようになりました。また一つ成長できたと思います！</li> <li>・自分の知らない世界がたくさん広がっていることを改めて実感するとともに、これからの将来についてももっと真剣に考えたいと思った。</li> </ul>	6
あこがれ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・留学生の方たちは、本当に努力しているんだということが分かりました。自分が、こうしよう！と思ったことを行動に移せる勇気がすごいなと思いました。</li> <li>・留学生と話して語学勉強するために日本に留学してるんじゃないってことがわかりました。沢山の苦勞と努力をして日本にきた留学生のことを、私も見習いたいです。</li> </ul>	7
日本の良さの再発見・郷土愛	<ul style="list-style-type: none"> <li>・留学生との交流でもっと自分の国のよさを知ることができました。他の国の人と交流することで自分の視野を広げることができました。</li> <li>・最初の活動はStep1終了後に出された福島の良いところを紹介するという課題をみんなで見せ合い、最終的には留学生にプレゼンをするというものでした。私は「ぬくい」という福島の方言で「あったかい」を意味する言葉を書いたため少し恥ずかしくなり、もっと真面目に考えればよかったと反省しました。でもみんなは「それ、いいじゃん!!」と受け入れてくれて、嬉しくなりました。二日間を通して一番印象に残っていることは、福島のことを伝える講演会や、福島に行くというスタディツアーを計画するというお話でした。ブログで批判され炎上しても、福島のことを伝えたいという熱い思いに感動しました。私は福島県人だけれども、その方の方が私よりも何倍も苦勞して、何倍も福島を知っているのではないかと思います。</li> </ul>	4
周囲のサポートの気づき	<ul style="list-style-type: none"> <li>・色々な人の、色々なこれまでの人生のお話を聞いて一番思ったのは、自分はなんて恵まれた環境にいるんだろう、と言うことです。私は親に自分のやりたいことをやっていいと言われる。これはなんだかんだ私のやりたいことを応援してくれている優しい親がいるということです。きっとこれは幸せなことなのです。私も感謝しているんだと思います。今回の留学生の話で、やりたいことがあっても出来なかった、と言う話をたくさん聞きました。でも私にはやりたいことをやれって言う親がいて、きっとやりたいことをやれる環境も揃っていて、それをむだにしている気がしてなりません。今回の話で、そのことによく気付かされて、もっとよく考えよう、と思えました。親も納得してくれるような、私の幸せな将来を考えたいです。</li> </ul>	1
楽しかった等の感想	<ul style="list-style-type: none"> <li>・久しぶりにメンバーの人たちに会えて、すごく嬉しかったです。</li> <li>・他国への留学がどれだけ大変な事なのかがあった。みんなそれぞれ家庭内、自分自身との葛藤があってそれを乗り越えてきた人があの場所に来てくれたのだと思うととても嬉しかった。いい学びの場でした！</li> <li>・留学生の方々とお話するのは今回が初めてでした。なかなかない機会だったのでとても新鮮で良い経験になりました。</li> </ul>	7
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・久しぶりにみんなと会いましたが前より仲良くなって良かったです！留学生のさまざまな話も聞いて学んだことがたくさんありました。今回聞いた事を将来に生かせれば良いと思いました。</li> <li>・留学する理由はいろいろあるんだな一と思った。</li> <li>・あつという間だったと思います。留学生のお話を聞いて苦勞することがたくさんあるんだなって思い、皆で協力して生きていけないといけないと思いました。</li> </ul>	6



Table 6 ステップ3の感想のまとめ

カテゴリー	回答例	頻度
キャリア意識	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の進路についてとても悩んでいるのでたくさん話を聞いて参考になりました。日本にはたくさんの仕事があるんだと思います、もっと視野を広げてみようと思います。自分の夢を叶えるためにたくさん努力をしている姿はすごくかっこよかったです。私も、夢を叶えるためにたくさん努力をしたいです。また、失敗を恐れずに何事もチャレンジしたいと思います。</li> <li>社会人女性と話をして、未来への道は1つじゃないということを確認しました。今まで、将来の夢に近づくには自分で何もしなければいけないで大変だと思っていました。でも実際はそうではなくて、自分の周りにヒントはたくさん転がっていて、それに気づくことができれば、夢の実現につながるることができるかと教えてもらいました。</li> <li>今回のプログラムで、今まで知らなかった企業や社会の仕組みを学ぶことができました。具体的には、I 商社が、パナナやチキンなどの必ず口にしたことのあるものを扱う身近な企業だということ、人と人、ひいては、国と国を繋ぐ大切な役割をしていること、そして社会貢献の役割を担っていることを知りました。</li> <li>前までは働く事は大変な事しかないと思っていました。でも今回参加して、働く楽しさややりがいを知ることが出来て本当によかったです。</li> </ul>	29
新たな気づき	<ul style="list-style-type: none"> <li>どの方々も「誰かのために」努力をしたり、企画をしたりと働いていて、私達もそのおかげでこのキャリアプロジェクトに参加できているということに繋がっていて、とても感謝しなきゃいけないな、と思いました。話を聞いていて皆に共通してた、努力し続けることや、決断力、行動力というのは、自分にとって今一番大切に欠けていることだと思うので自分もしっかりと努力して「誰かのために」と働くことのできるかっこいい女の人になりたいです。</li> <li>何かを決めるときはやってみたいかどうかってことがポイントだということ学びました！今までは、出来るか出来ないか、周りの人がそれをする事でどういう風に私のことを見るのかってことで選択をしてました。でもそうじゃないんだ！やってみたい！って思ったらやってみようって思うようになった。</li> <li>将来の事ばかり考えても目の前のことが見えなくなってしまっは意味はないという言葉がとても納得出来ました。</li> </ul>	15
女性のロールモデル	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業で活躍している女性の方のお話は、私達を驚かせるものばかりでした。社会で活躍する女性の方たちは留学をしたり大きな夢に向かって努力していた過去があって、みなさんとてもキラキラしているように見えました。私には、今、夢もなく目標もありません。だけど、社会人の女性の方のお話を聞いて、自分もいつか夢や目標を持った時、今回お話を聞いたみなさんのように努力して将来、自分のことについてはっきり自信を持って話せるような女性になりたいと思いました。</li> <li>女性が社会に大きく貢献できると思った。昔は男性のほうが立場は上で、男女間に格差が生じていたが、今は時代が変わり、女性に優遇された施設や制度も存在することから、私達も自分の得意なことや興味のあることに全身全霊で挑んでいけば、その中で大いに活躍することは可能だと感じた。</li> </ul>	13
成長・変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会人女性の皆さんから自分の夢の参考になることが本当にたくさん聞きました！みなさん自分の信念をしっかり持っていてとても素敵でした。相談に乗ってくれたりとても身近にお話ができうれしかったです！また今回までを振り返ってみるとstep1の時よりももっとも自分の将来について深く考えるようになりました。具体的に自分がしたいことについて調べたりと自分でも進歩がとても感じられてうれしいです！step4では私が学んだことを後輩にしっかり伝えたいです！</li> <li>step4に向けてチームで話し合いをしていたとき、今までならやる気のある人・発言力のある人の意見に賛成して自分はなにもしないでいました。でも今回は自分も積極的に参加して意見をだしてみんなで話し合いを進めていきました。このように、今までのキャリアプロが活かされているのが常に見えることができます。</li> </ul>	5
グローバル意識・英語や留学の重要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>今回はSoftBankさんとLAWSONさんの話を聞いたんですがSoftBankさんが、すごいたくさん企業に関わっていること、LAWSONさんは、たったの5人でハワイにLAWSONを作ったことに驚きました。また、ナイトセッションではANAさんやJR東日本さんの話も聞きました。どこの企業さんのお話はとても面白く、学ぶことがたくさんありました。そして、どこの企業の方も留学などをきっかけに変わっている方も多かったので英語を話せるってことは大切なんだなって改めて感じました。私もstep2で英語を話すと言明して達成でき、少し自信がついたので、これからも英語の力をのばせるようにがんばりたいなと思ったプログラムになりました。</li> <li>海外を舞台に働きたいと考えているが、お話を聞いて文化や言葉などの違いなど大変な事が多いことがあるということも改めて思った。</li> </ul>	3
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>今回のステップでは、たくさんの方が学べました。国際的に活躍する社会人女性の経験話やおもしろい話を聞いて自分の糧になることもたくさんありました。お喋りも楽しかったです。</li> <li>最初は自分には関わりのない職業の人の話を聞いて自分のためになるのかわからなかったけど、参加して、自分の進路に直接に関わりがなくても興味深いいろいろな話を聞くことができ、とても貴重な経験をすることができました！</li> </ul>	9

Table 7 ステップ4の感想のまとめ

カテゴリー	回答例	頻度
伝えることに対する不安や難しさ、達成感	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Step4は今まで積み重ねてきたものをみんなに発表するもので、自分にできるかとても不安でした。〈中略〉自分はこういうことを伝えたいのに相手にきちんと伝わっているのか不安になりました。人に伝える伝え方はたくさんあって、それを伝えるには努力しないとイケないのだと思いました。とってもいい経験をすることができました。</li> <li>・今回Step4に参加して、“伝えること”の難しさを感じました。自分が感じたことを言葉にして伝えるように伝えることについてみっちり考えた2日間でした。チームのメンバーとメンターさん、事務局の方と考えて話し合っただけで練習して……。話し合いに行き詰ったり、褒められたり、厳しいことを言われたり、アドバイスをもらったり。「それじゃあ伝わらないよ」と言われて、みんなで大変な悩みました。そうして作り上げた私達の出会の発表をうなづきながら聞いてもらえたときはすごく緊張したけど終わった後は達成感と自信がついたような気がしました。発表がよくなるように、私達が成長できるようにアドバイスをくれた全ての人に感謝しています。</li> <li>・私は自分の考えを相手に伝えることがとても苦手でした。でもStep4を通して、恥ずかしさを捨て、相手の目を見ながら話す楽しさを味わうことができました。</li> </ul>	22
達成感や活動の楽しさ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生の前で発表するというのを聞いていたので、すごく緊張していました。でも、これまでのステップでいろんなことを体験してきたことを絶対に1年生にも教えたかったので、今回はチームのメンバーとプレゼンがんばれました。すごく話し方とか絵とかも工夫して大変だったけど、達成感もあったので良い経験ができました。</li> <li>・「もっとこうしたら……」「ここはこうすべきじゃ……」という活発な話し合いを重ね、リハーサルをするたびにクオリティがあがっていき、自分でも自分の成長、チームの成長がわかるくらいいい準備をして1日目を終えることができました。続く2日目も少し緊張したものの、1年生に満足のいくプレゼンがすることができてよかったです。最後のほうは本当に寂しくて涙が止まらないときもありましたが、ここからまた新しいスタートだという希望を持つことができ、最高のStep4にすることができました。</li> </ul>	20
チームワーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Step4ではチームの団結さがとても重要でした。きっと自分一人だったら、間に合わない、疲れたと言ってあきらめてたと思います。しかし、チーム(X)は準備はギリギリでドキドキハラハラしたけど、間に合ったし、1年生にももしっかり伝えられて良かった。</li> <li>・Step1～4まで半年間かけてやってきたチームの仲間とメンターさんと集大成となるような発表を1年生にできたと思います。私は、人前で発表するのが苦手で少し自信がありませんでしたが、周りの皆が支えてくれて、一緒にいるだけで、勇気がわいてきて、会う機会は少なかったけど、こんなに安心感があって、自分が成長している仲間と出会えて本当に幸せだなと改めて感じました。Step1～4までを振り返って、Step3に参加できなかったのは本当に残念だなと思うし、チームにも迷惑をかけて、申し訳ない気持ちです。でも、Step3であった出来事とかを教えてくれて、すんなりStep4に参加できたことが嬉しかったです。本当に良いチームにめぐり会えたことを感謝しています。</li> </ul>	11
振り返りの良い機会・後輩とのつながり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで学んできたことを振り返り、まとめる機会が得られてますます経験が身になった気がします。初対面の1年生を迎えるということで少し緊張しましたが、最後にはプログラムに参加したいと笑顔で帰ってくれて本当に嬉しかったです。</li> <li>・Step4に参加することで全体のことを振り返ることができました。YAから学んだこと、留学生から学んだこと、社会人から学んだことを下級生に伝えることで改めてプレゼンして下さった方々の思いを知ることができました。また、プレゼンテーションをする側になることで聞く側のことを考えて、伝え方を考えることがとても新鮮で学ぶことができました。</li> </ul>	9
成長・変化を実感	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加する前は不安がたくさんあったけれど、終わったときに「今回、行ってよかった！」って思いました。このプログラムが自分にどれだけ影響力があるのか、改めて思い知ることができました。去年の自分とはまるで違くなりました。</li> <li>・高校1年生が一人つくということで、今まで誰かを引っぱるとか上手にできなかったのが最初はすごく不安でした。でも、YAの人がステージでお話して下さって、“できるんだ”、“楽しみ”と思えました。Step1で私たちにYAがしてくれたことをStep4で私たちが1年生にすることになるなんて考えてなかったのが、ビックリしました。テンションを上げてむかえた1年生とは少しとまどっていたところもありましたが、すぐ仲良くなれてうれしかったです。この時わたしは“できるんだ”って実感することができました。</li> </ul>	6
郷土愛	<p>いわき市開催ということで大分地元感があった。〈中略〉一緒にいた友達が、いわきは夕焼けも朝焼けもとてもきれいとってくれた。私達いわき勢はなんてことはない風景だったから写メっていて驚いた。第3者から見たいわきは素敵なおなんだなあと思って嬉しくなった。その反面で私はいわきに住んでいるのにいわきのことが全然わかっていないことに気付いた。自分の住んでいるいわきを知らないなんてもったいない。いわきの良さを知らうと考えるきっかけになった。進学先や就職先でもネタになってそこからつながりが増えるはずだから調べていきたい。</p>	1
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が教える立場になって、人に教えるためには色々な経験が必要なんだと思った。1年生と話をしてみて、自分の考えとは違う意見を聞けて、勉強になった。</li> <li>・最後のSTEPに行けるのかかわからず不安だらけでしたが、途中からでも行くことができ、良かったです。全員で揃って活動することができず、少し残念でしたが、協力して活動することができました。自分たちがやってきた全てを発表することができ、本当に嬉しかったです。途中からでも参加し、優しく迎え入れてくれた方々に感謝しています。</li> </ul>	9

## 2. ステップ1～ステップ4の質的データの検討

ステップ1で多く見られた感想には、「楽しかった等の活動の感想」、「変化・成長を実感・自信・チャレンジ」、「自己発見」、「YAの関わり・エンパワメント」、「グローバル意識・体験」であった。以上のことから、ステップ1では、YAの関わりや歌と踊りによって自己表現を行うことによって「自信」や「チャレンジ精神」が高まること示唆されている。一方で、「キャリア」に関する言及は少なく、この段階でのキャリアメンタリングの効果としては、全般的なエンパワメントであり、具体的に考える機会までは至っていないことが推察される。

ステップ2で多く見られた感想には、「留学生の努力への共鳴・刺激」、「グローバル意識・英語や留学の重要性」、「キャリア意識」、「あこがれ」があり、自分たちと年齢があまり変わらない留学生の話聞き、その苦勞に共感し自分の生き方について考える刺激を強く受けている様子が見てとれる。また、実際に留学生とことばを交わすことによって、英語の重要性を感じたり、文化が違って同じ人間であるという共通性に目がいったりというグローバル体験をもっていることが推察される。この段階でのキャリアメンタリングの効果としては、夢を叶えるために必要な姿勢や経験についての意識であることが推察される。

ステップ3で多く見られた感想には、「キャリア意識」、「新たな気づき」、「女性のロールモデル」であった。この段階では、実際に社会で活躍する女性の話を聞き、会話を交わしたりアドバイスをもらったりすることで、社会にどのような仕事があるのか具体的に学ぶ機会になり、働く女性のロールモデルを獲得している様子が推察される。この段階のキャリアメンタリングの効果としては、仕事の種類について具体的に学ぶこと、キャリア形成につながる職業観や必要な準備、女性のロールモデルの獲得である。

ステップ4で多く見られた感想は、「伝えることに対する不安や難しさ、達成感」、「達成感や活動の楽しさ」、「チームワーク」、「プログラム全体の振り返りと後輩とのつながり」、「成長・変化を実感」であった。これまではプログラムを受ける側であったが、プログラムを提供する側にまわることで、難しさを感じると同時に、達成感を強く感じられている様子が伺える。

これら質的データで示唆されている効果は、量的データとも対応しているといえる。自信は、YA終了後よりも、プログラムを重ねるごとに高まっており、参

加者はYA終了時よりもステップ2～ステップ4の終了時の方が、自信が高まっていることが示されている。また、自由記述の分析から、ステップ4が最も表現やチームワークを求められる内容であることが示されているが、得点上の変化でもステップ4終了時の「自己表現」と「チームワーク」の得点がステップ1、ステップ2の終了時の得点より高いことが示されている。このことは、量的データの妥当性を示唆する結果といえる。

## 3. 現場への提言

今回の実践より、現場への提言を3点述べる。第1に、今回実施されたステップ1～ステップ3の内容を各学校単位で実施することは困難であることが予想される。一方で、生徒の自由記述の内容から、どのような要素があるとキャリア意識やグローバル意識が高まるのか、ということが示唆されている。例えば、YAの関わりについて「大丈夫」、「上手」と声を掛けてくれたこと、励ましてくれたことが多く言及されている。自分の進路や行動について応援してくれる存在によって、励まされることが述べられている。こうした要素は、各学校のキャリア教育の中で実現することが可能であると考えられる。また、日本への留学生は過去最高を記録し、184,155人に達している（日本学生支援機構、2015）。各地の大学と連携することで、留学生に学校に来てもらい体験を話してもらうことは実現可能であると考えられる。また、社会で活躍する女性もこれからますます増加することが考えられる。地元で活躍する社会人女性を学校によび、話をしてもらうといったこともアレンジが可能であろう。今回と全く同じプログラムでなくても、今回のプログラムの要素を各学校で取り入れることは可能であろう。

第2に、ステップを重ねる効果が示された点である。今回4つのステップを実施し、その都度アンケートを実施したことによって、各プログラムで得られる効果が異なることが示された。各学校や対象とする生徒の前段階のニーズに応じて、プログラムを考える1つの資料になろう。

第3に、こうしたキャリア体験プログラムは、職業体験に参加したり人の話を聞いたりすることで終わってしまいがちであるが、今回ステップ4で「達成感や活動の楽しさ」「チームワーク」「後輩とのつながり」「成長・変化を実感」などの感想が得られ、学んだ内容の振り返りが行なわれ学習内容の定着につながっていることが示唆された。高校等でキャリア体験実習を

行うとき、体験した学年が下の学年にチームでプレゼンテーションを企画・実施することは、大切なキャリア教育の一部になりうることを示唆された。

#### 4. 本研究の限界と今後の課題

今回の研究では手続き上の課題がいくつかみられる。第1に、1回目の調査をステップ1終了後に行っているため、このプログラムに参加する前の女子高校生の状態と比較することができていない。YAワークショップは質的データに示されている様に非常にインパクトの強い内容であり、ステップ1終了後に既に得点はかなり高くなっていることが推察される。YAの事前データも収集した上で、プログラム全体の効果を検討する必要がある。またステップ3、ステップ4に関して、インフルエンザや部活動の試合等で欠席者がかなり多く、最終的な分析対象者数が減少してしまったことも、結果に影響を及ぼしている可能性がある。

第2に、本研究では統制群を設置できていない。このような教育プログラムではしばしば統制群を設置することが難しいことは指摘されている。そのため、ウェイトンリスト群を設けるなど、教育現場における実験的な研究計画の工夫などが推奨されている。こうした実施の仕方については、今後検討していきたい。

第3に、プログラムの般化や維持の検討についてである。今回プログラム終了時の得点がどの程度維持されているかフォローアップ調査をとり検討する必要がある。また、今回の参加者がどのような進路を選び、そのことが今回のプログラムの内容とどのように結びついているか、そうした観点からの研究も必要であろう。これらは今後の課題とする。

注1：ヤングアメリカンズとは、1962年、若者の素晴らしさを音楽によって社会に伝えようと、ミルトン・C・アンダーソンによって設立された非営利活動団体である。音楽講演と教育が活動の二本柱であり、17歳から25歳の若者たち約300名で構成されている。日本では、2006年よりNPO法人じぶん未来クラブが招聘し、ヤングアメリカンズの活動の企画運営を行っている。実績として、世界22か国以上で児童生徒及び大学生を対象にしたアウトリーチ活動（出張授業）を行っており、平成24年度には、文部科学省から復興教育支援事業として採択され、9月から2カ月間「東北支援ツアー」を実施し、被災地の学校において子どもたちのみならず、地域住民に勇気と希望を与える活動を展開しているプログラムである。

#### 【引用文献】

- 安達智子 (2008). 女子学生のキャリア意識—就業動機、キャリア探索との関連 心理学研究, 79, 27-34.
- 藤枝静暁・相川 充 (2001). 児童に対する集団社会的スキル訓練の効果 教育心理学研究, 49, 371-381.
- 藤原健志・飯田順子・甲斐雄一郎・松本末男・日下部公昭・鈴木 亨・石隈利紀 (2015). 高校生の国際研修旅行経験による国際的資質の向上 筑波大学学校教育論集, 37, 19-28.
- 久田 満・千田茂博・箕口雅博 (1989). 学生用ソーシャル・サポート尺度作成の試み (1) 日本社会心理学会第30回発表論文集, 143-144.
- 飯田順子・石隈利紀・佐野二郎・林貴美子・新津勝二・甲斐雄一郎・松本末男・今井二郎・藤原健志 (2015). 児童生徒の国際的資質を育成する実践—『ヤングアメリカンズワークショップ』を通じた附属学校の児童生徒の変化 筑波大学学校教育論集, 37, 1-9.
- 石毛みどり・無藤 隆 (2005). 中学生における精神的健康とレジリエンスおよびソーシャル・サポートとの関連—受験期の学業場面に着目して 教育心理学研究, 53, 356-367.
- 石隈利紀 (1999). 学校心理学—教師・スクールカウンセラー・保護者のチームによる心理教育的援助サービス 誠信書房
- 箕浦有希久・成田健一 (2013). 2項目自尊感情尺度の開発および信頼性・妥当性の検討 感情心理学研究, 21, 37-45.
- 内閣府男女共同参画局 (2015). 第1部 男女共同参画社会の形成の状況  
[http://www.gender.go.jp/about\\_danjo/whitepaper/h25/zentai/html/honpen/b1\\_s02\\_02.html](http://www.gender.go.jp/about_danjo/whitepaper/h25/zentai/html/honpen/b1_s02_02.html) (2015年12月21日)
- 日本学生支援機構 (2015). 平成26年度外国人留学生在籍状況調査結果  
[http://www.jasso.go.jp/statistics/intl\\_student/data14.html](http://www.jasso.go.jp/statistics/intl_student/data14.html) (2015年12月21日)
- 西山久子・石隈利紀・家近早苗・小泉令三・Pfohl, W. (2014). 東日本大震災を体験した後の子どもと学校のレジリエンスを高める取組み 日本学校心理士会年報, 7, 159-167.
- 小塩真司・中谷素之・金子一史・長峰伸治 (2002). ネガティブな出来事からの立ち直りを導く心理的特性—精神的回復尺度の作成— カウンセリング研究, 35, 57-65.
- 榎原 (関) 圭子・石川ひろの・木内貴弘 (2013). 日本語版Mentoring Functions Questionnaire 9項目版(MFQ-9)の信頼性・妥当性の検討 産業衛生学雑誌, 55, 125-134.
- 鈴木香苗・坂元章・森津太子・坂元桂・高比良美詠子・足

福島県の女子高校生を対象としたキャリアメンタリングプログラムの実践

立にれか・勝谷紀子・小林久美子・榎淵めぐみ・木村  
文香 (2000). 国際理解測定尺度 (IUS2000) の作成  
および信頼性・妥当性の検討 日本教育工学会論文誌,  
23, 213-226.